

### (3) 来訪者インタビュー調査

来訪者の移動手段や行動特性（立ち寄り場所等）を把握するとともに、公共交通バスの利用意向（利用しない理由等）を確認した。

#### 1. 調査概要

- (1) 調査場所：三井アウトレットパーク入間、イオン入間店
- (2) 調査日：三井アウトレットパーク入間 平成 27 年 6 月 29 日（月）  
イオン入間店 平成 27 年 7 月 5 日（日）
- (3) 調査方法：調査員による来訪者への直接聞き取り調査
- (4) 調査数

	アウトレット	イオン
来訪者調査数	122	113

#### 2. 調査結果

##### ○移動手段

- ・両店舗とも「マイカー」が約 7 割を占める。
- ・アウトレットへは、路線バスの利用も多く、約 3 割を占める。イオンへは、自転車での移動が約 2 割を占める。

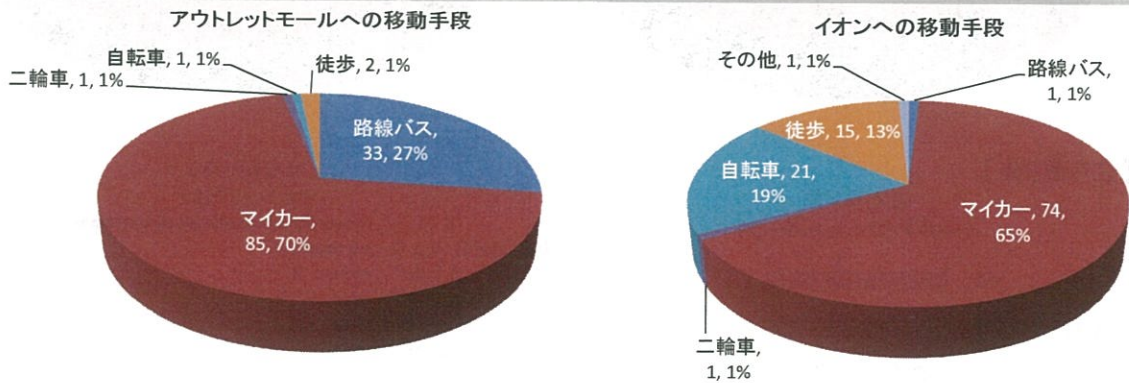


図 1-52 移動手段

##### ○所要時間

- ・アウトレットには、60 分程度かけて来られる方が約半数を占める。
- ・イオンへは 15 分程度の方が約 8 割を占める。

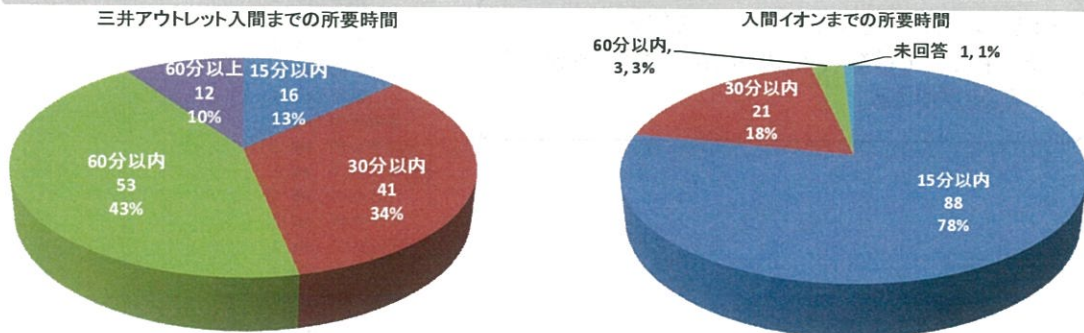
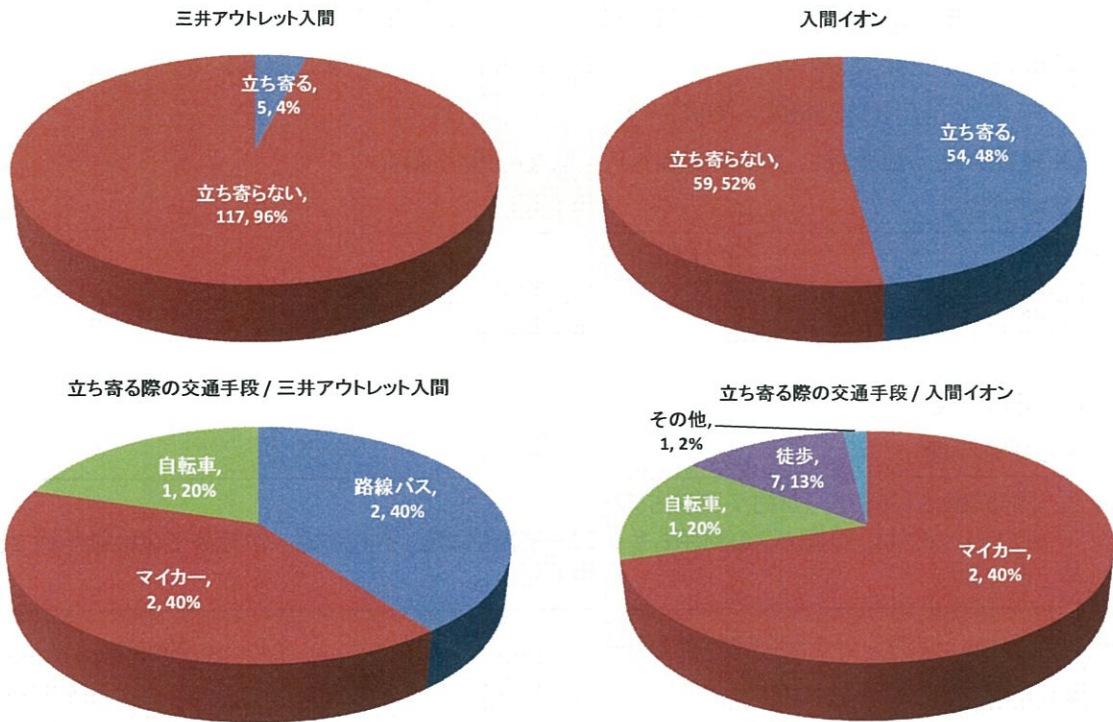


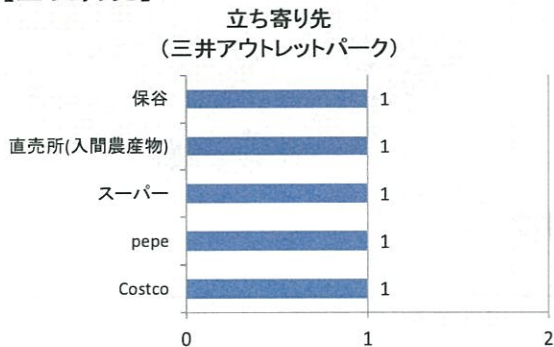
図 1-53 目的地までの移動時間

○立ち寄りの有無とそこへの手段

- ・アウトレットへ来られる方は、アウトレット自体が移動目的となっており、他への立ち寄りはない。
- ・イオンへは、イオン以外へ立ち寄る方が、約半数を占める。



【立ち寄り先】



- ・イオン以外に、他のスーパーへも立ち寄っている。
- ・買い物だけではなく、他の用事と一緒に移動していることが伺える。

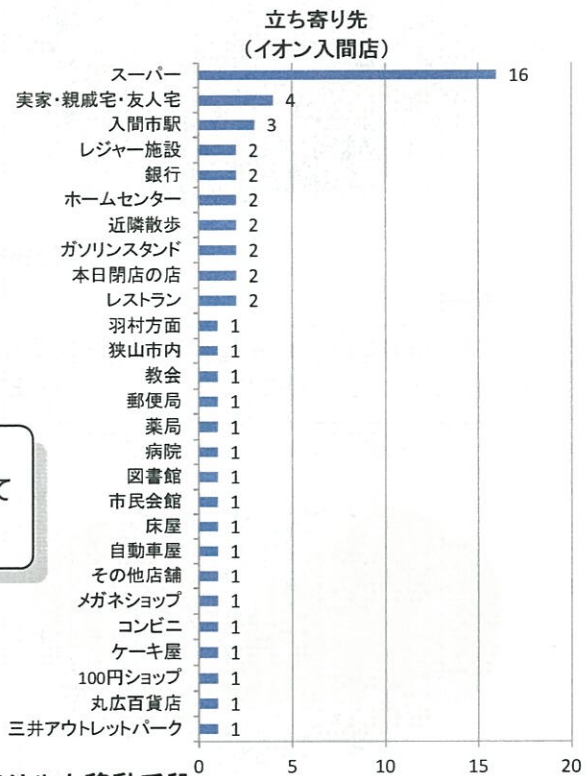


図 1-54 立ち寄り先と移動手段

#### 1-4. 入間市内関連部局の動向

公共交通に関して、他部局での考え方や、今後の施策の方向性などについて、調査を実施した。

##### (1) 高齢者福祉課（ヒアリング）

###### ①シルバータクシー券について

配布枚数と利用状況 (H26年度実績)	配布枚数 14,525人 87,150枚(6枚/人) 利用状況 35,818枚(約41%) ⇒約21,490千円(市の負担分)
現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の財政的負担が大きい。</li> <li>・H23年度廃止予定であったが、存続を望む声もあり、支給対象者の年齢を1歳ずつ引き上げながら、配布してきた経緯がある。</li> <li>・H28年度末で廃止を予定している。</li> </ul>
今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シルバータクシー券の廃止に伴う、代替サービスが必要と考えている。(要援護高齢者等タクシー券は存続)</li> <li>・過剰サービスではないかという声がある一方で、必要とされる方もいる。幅広い対象者へのサービスとして、今後、デマンド交通の検討を始める予定である。</li> <li>・市の負担が一定となるような仕組みを考えていきたい。</li> </ul>

###### ②ていーろーどの活用について

- ・交通空白地を無くすことが重要と考えており、公平なサービスを提供できることが必要である。
- ・将来的に、デマンド交通と一体的に、市民の足としての活用を考えていきたい。

##### (2) 商工課（資料提供）

【次期、総合計画・基本計画における政策素案】

政策名称	観光の振興	
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本誌の知名度や魅力を高め、地域が活性化するような観光振興を図る。</li> <li>・既存の文化的・伝統的な観光資源に加えて、新たに機体されるスポット等を活用した観光資源の開発を図る。</li> </ul>	
施策の方向性 (一部抜粋)	主な取組	内容
	魅力の発掘	まちなか観光資源、自然環境資源、歴史文化資源等の発掘
	魅力の開発	まちなか観光資源、自然環境資源、歴史文化資源等開発
	大型商業施設との連携	大型商業施設との観光キャンペーン等での連携を図る。
	観光コース等の開発	魅力を具体的に体験できるコース等の開発を進める。

⇒観光周遊を支援する公共交通のあり方等についても、今後、検討していく必要性がある。

## 1-5. 近隣市町村の動向

入間市周辺で、入間市同様、市が運行している公共交通がある、所沢市、狭山市に、公共交通の現状や今後の取り組みについてヒアリングを実施した。

### (1) 所沢市

#### ①現在運行している巡回バス等に関して

運行開始	平成10年から運行開始
公共交通会議等、現状の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度（平成27年度）、地域公共交通会議を立ち上げた。</li> <li>・メンバーは、条例記載の通り。 （市民代表として、無作為抽出した300名の中から了承頂いた4名の方を選出。学識は、東洋大学 尾崎教授）</li> <li>・福祉対策、交通空白地域解消を目的に運行している。</li> <li>・運行に関することは交通安全課で担当している。（政策的なことを総務企画課が担当）</li> </ul>
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年々、利用者は増加しているが、採算ベースでの利用率を増やしたいと考えている。（65歳以上は100円としているが、この年齢層が増えても採算上は厳しい）</li> </ul>
運行経費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運行は、西武バスに委託</li> <li>・運行経費全体から運賃収入を差し引いた額を、市の単費で補填。</li> <li>・12台のバスを保有しており、11台が常時稼働している。</li> </ul>
現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年々増加はしているが、利用者数が少ないことが課題。</li> <li>・平成25年に交通不便地域を対象とした利用者アンケート調査を行っており、その中では、「今は車に乗れるからバスを利用する必要がない」という意見が多かったが、今後は状況も変化すると考えられる。</li> <li>・11台常時稼働は地方に比べると多いが、5～10年後を見据えてやっていかないといけないと考えている。</li> </ul>
今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公共会議とは別に、庁内の検討会も立ち上げている。今後の改善の方向性を検討中。</li> <li>・平成27年度、利用者アンケート調査を実施予定。</li> </ul>

#### ②今後、入間市バス路線との連携について

##### ◆今後、巡回バス等の運行見直し時に、他市域との接続・連携を考える可能性

- ・是非、取り組みたいと考えている。
- ・利用者からも、そういった要望が寄せられている。（西武フラワーヒル周辺の利用者が入曽駅方向への運行を希望等）
- ・近隣3市（所沢、入間、狭山）ともに、西武バスへの運行委託であり、可能性はある。

##### ◆その際、課題となりそうなこと

- ・料金体系の違いと収受方法
- ・所沢市では、現在65歳以上の方は、均一料金制で100円としているが、こういった要件も市によって異なる。

(2) 狭山市

①現在運行している巡回バス等に関して

運行開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成10年4月から(2台 4コース)福祉循環バスとして運行</li> <li>平成13年6月(3台 6コース)</li> <li>平成17年10月1日交通防犯課へ所管替え</li> <li>平成18年7月1日「市内循環バス(茶の花号)」に名称変更</li> <li>平成23年4月1日 通勤・通学2コース、市内循環コース6コース</li> </ul>
公共交通会議等、現状の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>「公共交通会議」等の検討組織は、現状ではない。</li> <li>今後、循環バスのみならず、路線バス、新たな交通公共機関の必要性を含め検討する必要もあり、協議会等の組織化は必要と考えている。</li> </ul>
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用状況</li> <li>平成24年度 68,218人</li> <li>平成25年度 73,435人</li> <li>平成26年度 76,841人</li> <li>ルートの見直し、増便の要望有</li> </ul>
運行経費	<p>運行経費から利用料金を差し引いた額を、バス事業者に補填</p> <p>平成26年度 運行経費 49,929,251円          料金収入 8,784,362円          補てん額 41,144,889円</p>
現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>路線バスを補完する公共交通機関として「循環バス」を運行しているが、道路環境等の問題から、空白地域をカバーすることに限界がある。</li> <li>ルートの見直しや増便に関する要望があるものの、財政的な問題がある。</li> <li>ますますの少子高齢化を控え、循環バスも含め、どのような手法で「市民の足の確保」を目指していくかが課題である。</li> </ul>
今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な課題はあるが、平成23年のルートの見直しから5年目を経過する事からまずは、循環バスに関する「利用状況調査(OD調査)」をする予定である。</li> <li>市内全体の「公共交通のあり方」を議論する場が必要なことから、組織の立ち上げを今後検討する必要がある。</li> </ul>

②今後、入間市バス路線との連携について

◆今後、巡回バス等の運行見直し時に、他市域との接続・連携を考える可能性

現在、入間市、狭山市など行政区域内での循環バスが運行されているが、行政境でユータウンしている状況がある。

路線バスも利用者の減少から、減便が続いている中、両市民の利便性の確保を図るためには、今後、行政境を越えた循環バスルートの運行は重要なことと考える。

入間市との相互乗り入れを想定した場合、新宿線と池袋線の連絡強化が想定される。

例：狭山市笹井地区と入間市野田地区の乗り入れ、仏子駅との連絡

：狭山市入曽地区と入間市藤沢地区の乗り入れ(新宿線と池袋線との連絡)

：その他

◆その際、課題となりそうなこと

- 相互乗り入れを実施した場合、循環バスの運行経費をどのように負担していくか。
- 道路交通事情等で、定時制が確保できるか。



## 1-6. 入間市公共交通の現況のまとめ及び課題整理

### (1) 公共交通の現況のまとめ

入間市の地域現況、アンケート調査、ヒアリング調査の結果から、公共交通の現況を以下の視点で整理する。

- ・視点1:入間市民の日常生活の支援に向けた移動手段の確保
- ・視点2:公共交通の利便性確保
- ・視点3:公共交通の維持・改善

#### 視点1：入間市民の日常生活の支援に向けた移動手段の確保

入間市民の方の外出目的は、「買い物」「通勤・通学」「趣味・遊び」「通院」が中心であり、利用交通手段は、自動車、自転車・バイクが多くを占め、バスの利用は非常に低い。

##### 【地域状況】

○通勤・通学の移動手段の中心が自動車となっている。(国勢調査、住民アンケート調査より) 将来、車を運転できなくなった時を不安視する声は多い。

##### ・主な意見の抜粋

「これからの高齢化社会に向けてバス運行本数の増加とタクシー（高齢者に対して安い運賃のもの）の増車の検討を希望します。」

「将来、主人も高齢になったとき、交通手段はタクシーだけになってしまいます。不安です。」

「・年齢が高くなると自動車の運転ができなくなる。・買物の頻度が高く、店までの距離が遠い為将来不安に感じる。・高齢者への交通手段が問題と思います。」

##### 【公共交通の状況】

○入間市駅、武蔵藤沢駅を起点に、三井アウトレットパーク入間方面、河辺駅方面、入間扇屋団地方面へ、仏子駅を起点に仏子ニュータウン方面へ西武バスが運行している。

##### 【ていーろーどの運行】

○市民の日常生活の移動手段確保として、路線バスがカバーできないエリアを、主に公共施設間を結ぶルートでの運行を行っている。

○3コースの利用者数には偏りがあり、また、同一コース上でも、利用が多い区間と少ない区間とに偏りが出ている。(利用需要が少ない区間が存在する。)

○通勤・通学に利用できる時間帯の運行が無い。また、月曜日が連休日である。

○運行本数が、各ルートで3~4便/日で、運行間隔が長い。

○1コースの運行延長が長く、各コースとも所要時間1時間程度となっている。

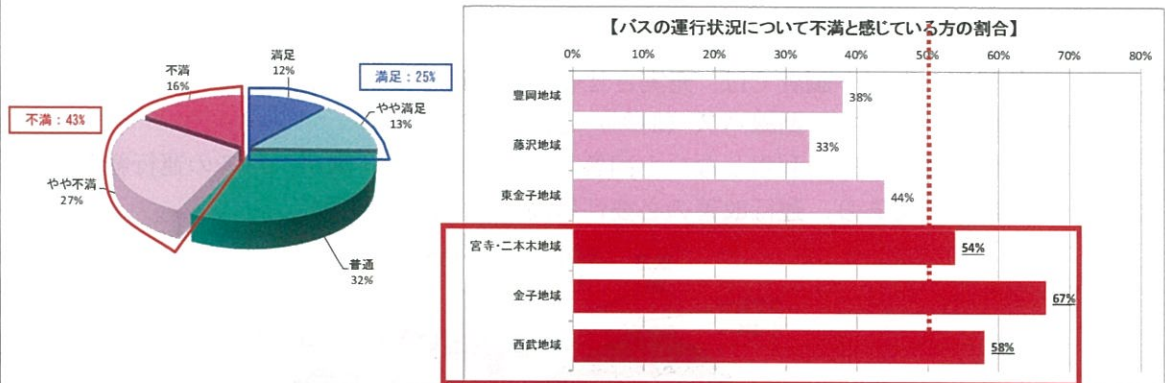
○全ルート、第1便が入間市役所からのスタートであり、特に、通勤・通学における利用については、各地域から駅等への移動手段としては利用できない。

視点2：公共交通の利便性

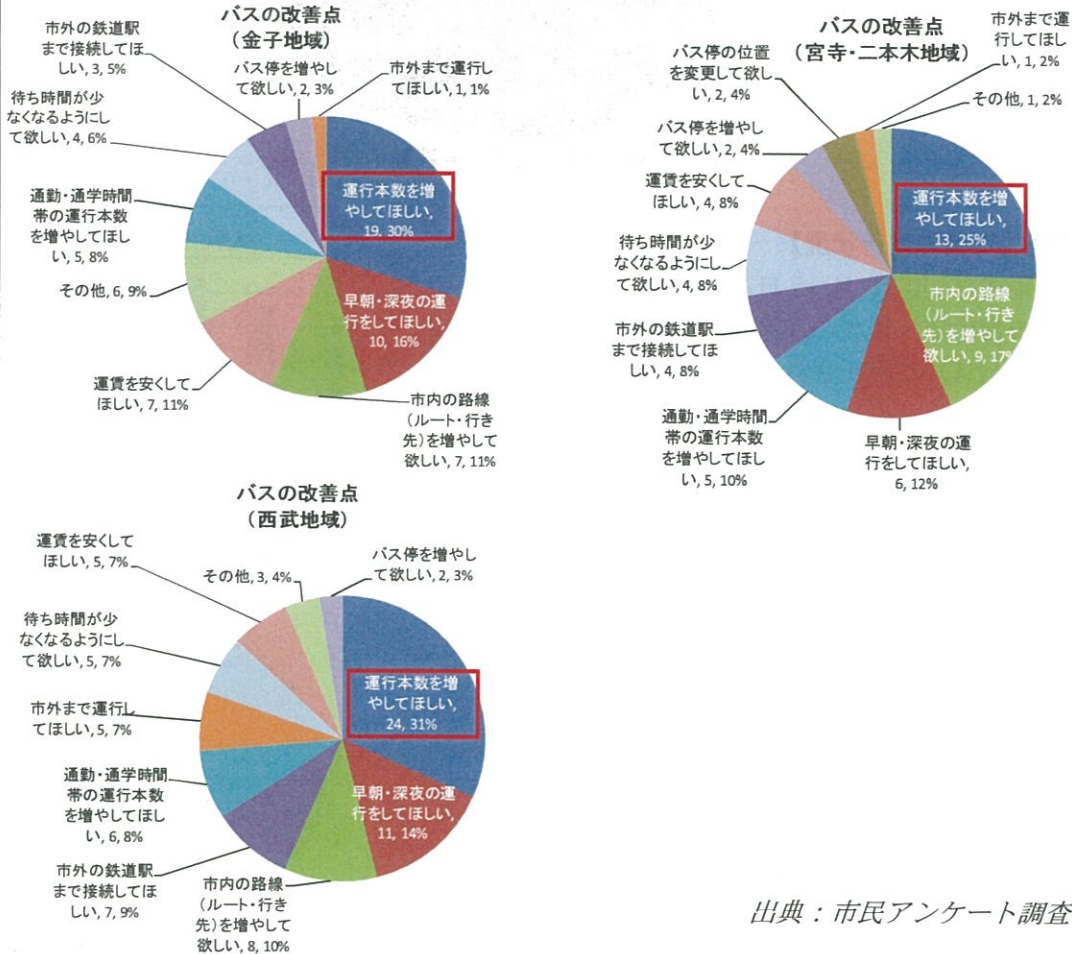
【公共交通の状況】

○現行の電車・バス交通では、**金子地域や宮寺・二本木地域を中心に交通空白地域、不便地域**が出ている。

○市全体の住民意識として、現行のバス交通に「不満」を感じている割合が高い。地域別では、「宮寺・二本木地域」「金子地域」「西武地域」では、不満の割合が過半数を占め、特に、**バスの運行形態に関する内容への改善要望**を持っている。



【バスへの改善要望】運行本数の拡大を望む声が多



出典：市民アンケート調査 (H27)



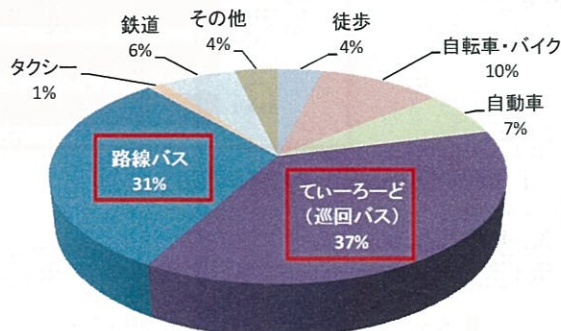
### 視点3：公共交通の維持・改善

#### 【将来のまちづくりの観点】

- 鉄道、バス交通ともに、輸送力の拡大や運行経路や運行本数の改善により、市民生活の向上を目指すとしている。（総合振興計画、都市マスタープランより）
- まち・ひと・しごと創生総合戦略においても「ずっと住みたいまちをつくる」「まちの魅力を活かす」が基本目標として掲げられており、移動利便性に対する充実が重要な施策の一つとして位置付けられている。

#### 【将来のバス利用に関する需要】

- 住民アンケート調査では、充実させるべき交通手段として、ていーろーどが約37%と最も多く、次いで、路線バス（31%）と回答している。
- 日常的に、バスを利用しないと回答した方の理由の6割が、バスの運行経路や本数に関するものであり、運行改善の必要性は高い。（P. 52 参照）



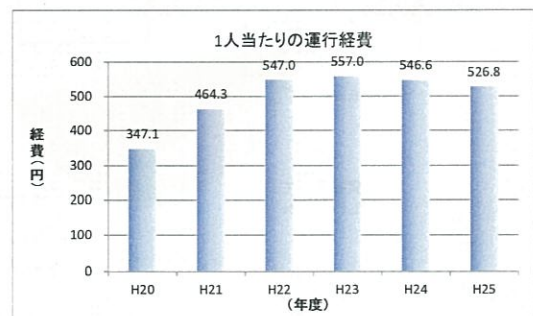
【今後充実させるべき移動手段】

#### 【公共交通の運行状況】

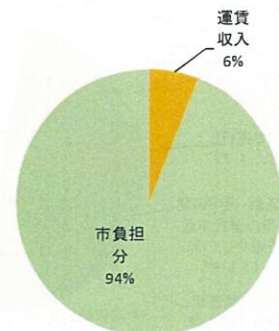
- 平成27年10月15日をもって、飯能市～市営住宅～新光の3系統（いずれも国際興業バス）が廃止された。

#### 【ていーろーどの運行経費】

- 70歳以上の高齢者及び障がい者については、特別乗車証（無料バス）が配布されている。それ以外の利用者は、対距離制の料金制度である。
- 市の負担額は、近年大きな変化は無いが、利用者の減少に伴い、利用者一人当たりにかかる経費は増加している。
- 運行経費全体に対して料金収入は約6%となっている。



【1人当たりの運行経費】



【運行経費全体における料金収入の割合】



## (2) 公共交通の課題

公共交通の現況・利用状況をもとに、入間市の公共交通の課題について整理する。

### ①入間市民の日常生活の支援に向けた移動手段の確保

- 市民の日常的な利用施設である、公共施設や商業施設、福祉施設等の交流施設へのアクセス性確保
- 入間市民の移動手段確保に向けた公共交通空白地域・不便地域の解消
- バス停周辺的环境整備（駐輪場、屋根等）

### ②公共交通の利便性確保

- 利用者ニーズに対応した公共交通の運行経路・本数などのサービス水準の設定

### ③公共交通の維持・改善

- 厳しい財政状況における公共交通サービスにおける行政経費の削減
- 公共交通の利用促進、効率的な運行計画による公共交通の収益性向上
- 持続可能な公共交通に向けた市民や交通事業者、近隣自治体等との協働体制による運営のしくみづくり

**第2章 入間市地域公共交通網形成計画**

---

